



現状と課題

令和4年度県学力・学習状況調査結果より

【第4学年】

国語 平均正答率(県比較) **-2.9%**

算数 平均正答率(県比較) **+0.7%**

【第5学年】

国語 平均正答率(県比較) **+1.0%**

算数 平均正答率(県比較) **+11.5%**

【第6学年】

国語 平均正答率(県比較) **+0.6%**

算数 平均正答率(県比較) **-0.9%**

現状と課題をもとにした仮説

【対象児童に係る仮説】

○多くの職員が関わる時間を意図的に設け、「認め・励ますボイスシャワー」を励行すれば、自己肯定感を高め、「学びに向かう力」を伸ばし、学力向上を図ることができるであろう。

【学年全体に係る仮説】

○既得の知識や技能の活用(学びのアウトプット)を意識した「学び合い」を意図的に設定すれば、主体的・対話的に学習することができ、学力向上を図ることができるであろう。

【学校組織に係る仮説】

○教育課程や時間割編制を工夫することで、授業支援者の充実を図った指導体制を強化することができ、一人一人の学習状況に合わせた指導をすることができるであろう。

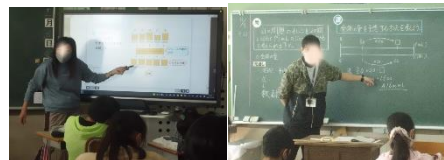
事業実施報告

- 5月24日～ ○○スクール実施
- 6月15日～ パワーアップタイム実施
- 7月15日 第1回校内授業研究会・協議会(算数)
- 8月30日 全国・県学力学習状況調査結果から具体的な方策を協議
- 11月24日 第2回校内授業研究会・協議会(算数)
- 10月・12月 3つの達成目標校内検証テストの実施

仮説をもとにした取組内容

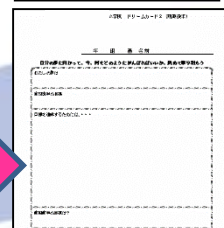
①授業の工夫改善

3分割・4分割制の少人数指導  
+TT指導のハイブリット



②授業外の支援の充実

パワーアップタイム プリントバイキング ドリームカード



個別の支援 学習資料の充実  
良文・古文の暗唱 ○○スクール



目標を定めて

④取組の「活用」



③学力の伸び・個に応じた指導

3つの達成目標検証



基礎学力の検証・支援  
「学び合い」の設定



学びのアウトプット

学校全体の  
学力向上

学びに向かう力の育成

◎④学習状況の「見届け」と個別支援の充実

⑤「できる実感」を味わえる指導

本校の課題

- 基礎・基本の定着不足
- 学びに向かう力の不足

【指導体制の強化と授業補助者の充実】

<算数>6年は学年を4分割し、T2を1名配置した5人体制で指導。5年生は学年を3分割し、T2を1名配置した4人体制で指導。

【学びに向かう力を伸ばすボイスシャワーの励行】

授業の中で意識してボイスシャワーをすることで学びに向かう力の素地づくりを行った。





現時点での成果

【令和4年度 5学年 対象児童 10名】資料①

考察① 県学力・学習状況調査より

- 国語 対象児童の平均レベル【4年時4-A】→【5年時4-A】
- 国語 学力を伸ばした児童の割合 **72.1%**
- 算数 対象児童の平均レベル【4年時3-A】→【5年時6-C】  
**7ポイント向上**
- 算数 学力を伸ばした児童の割合 **92.6%**

【令和4年度 6学年 対象児童 11名】資料②

考察② 県学力・学習状況調査より

- 国語 対象児童の平均レベル【4年時4-C】→【5年時4-A】→【6年時6-B】 **5ポイント向上**
- 国語 学力を伸ばした児童の割合 **77.1%**
- 算数 対象児童の平均レベル【4年時3-B】→【5年時4-B】→【6年時5-C】 **2ポイント向上**
- 算数 学力を伸ばした児童の割合 **51.8%**

【5学年】（県学力・学習状況調査） **資料①**

対象児童	国語		算数	
	昨年度	今年度	昨年度	今年度
A	3-A	3-B	3-C	4-A
B	6-B	6-C	3-A	5-A
C	5-B	4-C	3-B	4-A
D	4-A	—	3-B	—
E	3-C	4-B	3-C	5-A
F	4-B	5-C	3-C	6-B
G	4-A	5-A	3-B	8-C
H	3-C	4-A	4-B	7-C
I	5-B	4-C	4-C	5-C
J	5-B	3-A	4-C	5-A

【6学年】（県学力・学習状況調査） **資料②**

対象児童	国語			算数		
	一昨年度	昨年度	今年度	一昨年度	昨年度	今年度
A	1-C	2-B	—	2-B	3-C	—
B	3-B	4-C	5-A	2-A	2-A	4-B
C	3-A	4-B	5-A	4-B	4-C	4-A
D	6-C	3-A	6-A	3-A	3-B	3-C
E	4-B	4-A	6-C	3-C	4-C	4-A
F	5-C	6-B	6-C	2-A	4-B	6-C
G	4-C	4-C	5-C	2-B	4-B	4-C
H	4-C	5-B	8-B	4-A	5-A	7-C
I	4-C	5-B	6-C	3-B	5-A	5-A
J	4-A	6-C	7-A	2-A	5-A	5-C
K	3-B	5-B	5-A	4-C	4-B	6-C

課題及び次年度に向けて

【児童一人一人の確かな学力の定着のために】

- ・「学び合い」を意図的に取り入れた、主体的・対話的で深い学びに向けた更なる授業改善
- ・少人数指導における教職員の指導力の均一化に向けた指導力の向上やICT機器の積極的な活用
- ・「自己肯定感」「自己有用感」を高め、「学びに向かう力」の育成に向けた研究の推進
- ・少人数指導における「学び合い」の仕方の明確化
- ・授業外の支援体制の工夫・改善

本校独自の達成目標  
～PDCAサイクルの確立～

- ①登校時のあいさつ・授業中の返事 自己評価100%達成
- ②全校児童出席率 98.0%
- ③「4つの実践」「3減運動」自己評価（児童・保護者） 平均 95%
- ④全国・埼玉県学力学習状況調査 県・市平均以上達成  
検証テスト、小6テスト 市平均以上達成
- ⑤読書賞（30冊以上） 100%
- ⑥自主学习 4冊以上 100%
- ⑦良文・古典の暗唱 1人10個達成 100%
- ⑧新体力テスト県平均以上の種目 90%
- ⑨業前マラソン 学年のトラック 年間100周達成 100%
- ⑩永久歯むし歯治療率 95%

取り組むべき指針の明確化

